

全体構想の位置づけ

「越後平野生態系ネットワーク全体構想」は、河川や田園、里潟等の水辺の生物多様性の保全及び持続可能な利用に向け、多様な主体が目標等を共有し、連携・協働による生態系ネットワークの形成を長期的視点から推進するために取りまとめたものです。

生態系ネットワーク形成の基本方針

越後平野の多様な主体との連携・協働のもと、健全な生態系のシンボルとしての大型水鳥類などの生き物を指標とした広域の生態系ネットワークを形成し、健全な生態系が維持されていることでもたらされる様々な自然の恵みを活かした魅力向上の取組を通じて、越後平野の地域振興を図ります。

基本理念

越後平野におけるガン類・ハクチョウ類・トキが舞う
地域のにぎわいを目指して

基本方針1

生態系ネットワークの基盤となる水辺をはじめとした
環境の保全・再生

生態系ネットワークの形成基盤となる、人と多様な生き物が共存する水辺や、これを取り巻く森林等の保全・再生に取り組めます。

基本方針2

良好な水辺等の環境を活かした地域の活性化

河川、潟、水田などの流域の水辺等の環境が有する魅力、それらがもたらす自然の恵みの価値を地域内外で共有し、継続的に活かすことのできる、その地域ならではの「人の営み（産業、教育、文化など）」を具体化し、流域全体の活性化を図ります。

全体構想の構成

他地域の既設協議会が策定する構想・計画等を参考にしつつ、「背景」「現状」「課題」「方針・目標」「推進体制」といった枠組みで、越後平野生態系ネットワーク全体構想(原案)を検討しました。

越後平野生態系ネットワーク全体構想 目次

1. 生態系ネットワークの基本的な考え方	(1)生態系ネットワークの形成と期待されること (2)生態系ネットワークの形成を通じた社会資本整備や土地利用 (3)全体構想の位置づけ (4)対象地域
2. 越後平野の概要と大型水鳥	(1)越後平野について (2)越後平野における指標種およびシンボル
3. 越後平野における課題	(1)指標種の生息環境に関する課題 (2)地域振興におけるシンボルとしての指標種の活用に関する課題
4. 越後平野生態系ネットワークの方針・目標	(1)生態系ネットワーク形成の基本方針 (2)短期目標(2025年)、中期目標(2030年)、到達目標(2050年)
5. 越後平野生態系ネットワークの形成に関する取組	(1)生息環境に関する取組 (2)地域振興・地域活性化に関する取組 (3)越後平野生態系ネットワーク構想図
6. 越後平野生態系ネットワークの推進体制	(1)多様な主体との連携・協働体制 (2)行動計画

目標年次に応じた目標設定

生態系ネットワークの形成には長期的視点を持った取組が必要です。そこで、生物多様性条約で採択された「愛知目標」をはじめとした、多くの関連する計画の目標となっている2050年を、到達目標として設けます。また、本計画に基づく取組の進捗・到達状況を段階的に把握するため、2020年の状況を基準とし、2025年を短期目標年、2030年を中期目標年として設定します。

2050年 到達目標年次

生態系ネットワークの形成には長期的視点を持った取組が必要であることから、生物多様性条約第10回締約国会議で採択された「愛知目標」の中長期目標(Vision)年次でもある2050年を、到達目標年次と設定します。この2050年という目標年次は、環境省策定の「生物多様性国家戦略2012-2020」の長期目標年次、さらには国土交通省策定の「国土のグランドデザイン2050～対流促進型国土の形成～」の目標年次とも合致するものです。

2030年 中期目標年次

国内において政府、自治体、民間、団体等の多様な主体による取り組みが展開されている、持続可能な開発のための2030アジェンダ/SDGsの目標年次である2030年と設定します。

2025年 短期目標年次

国土交通省による国土形成計画(全国計画)や、指標種であるトキの野生復帰に関する行程および目標を示す、環境省策定の「トキ野生復帰ロードマップ2025」の目標年次である2025年と設定します。

到達目標(2050年)

越後平野全域において、生態系ネットワーク形成によってもたらされる恵みにより、持続可能で豊かさを実感できる、安心安全な地域が実現されるとともに、指標種であるガン類・ハクチョウ類・トキが舞い降りる美しい河川、潟、水田などの水辺が日常の風景であり続けることが、越後平野で暮らす人々の誇りとなっている。

生息環境づくり	人・地域づくり
(調査・評価・影響緩和) - 計画実行や検証に必要な、生息状況等に関する情報が得られる体制が運用されている。 - 指標種の生息に悪影響を及ぼす可能性のある事業等の実施に際しては、適切な保全対策が実施されている。 (ガン類・ハクチョウ類) - 越後平野においては、ねぐらや採食環境が保たれている (トキ) - 越後平野でもトキの安定的な繁殖・定着が各地で進み、年間を通じて身近な存在となっている。 (個体レベルでの安全性) - 人為的な要因による、指標種の死傷事故が起こりにくい、安心・安全な生息環境が実現している。	(支援体制構築) - 生息環境づくりや地域づくりの取組みに対して、人材の供給等による支援体制が持続的に運用されている。 (広報) - 継続的な広報活動などにより、越後平野生態系ネットワークに対する理解が深まり、圏域内の大部分の方々や圏域外の多くの方々に、この取組が認知されている。 - ガン類・ハクチョウ類・トキをシンボルとした生態系ネットワーク形成の取組が全国から注目され、地域ブランドの確立につながっている。 (環境学習) - 生態系ネットワークを通じた自然環境学習が、圏域内で広く実践されている。 (地域振興：観光) - ガン類やハクチョウ類、トキをシンボルとした生態系ネットワークに関連する地域資源を活かした観光が、圏域内で広く実践され、圏域外との交流も活発となっている。 (地域振興：農業) - 生物多様性保全型農業の取組が、圏域内で広く実践されている。
(持続可能で安心・安全な国土づくりや地域づくり) 社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する減災・防災機能を活用し、持続可能で安心・安全な国土づくりや地域づくりが実現している。	

中期目標(2030年)

行動計画に基づいて、指標種であるガン類・ハクチョウ類・トキが生息する水辺の保全・再生に必要な取組が実施・推進され、生態系ネットワークの形成が進みつつある。多様な担い手の連携と協働により、生態系ネットワークを活かした地域づくりも成果を上げつつある。

生息環境づくり	人・地域づくり
(調査・評価・影響緩和) - 計画実行や検証に必要な、生息状況等に関する情報が得られる体制が構築される。 - 指標種の生息に悪影響を及ぼす可能性のある事業等の実施に際しては、影響の回避や緩和、代償等の対応が実施されている。 (ガン類・ハクチョウ類) - 飛来・生息状況やポテンシャルに関する情報に基づき、越後平野におけるねぐらや採食環境の保全・再生に向けた自然再生事業や生物多様性保全型農業などの取組を進める。 (トキ) - トキの生息に適した環境を保全・再生するための取組や社会環境整備の取組が進められ、越後平野でもトキが定着し、繁殖できるようになる。 - 飛来・生息状況やポテンシャルに関する情報に基づき、越後平野における営巣地やねぐら・採食環境の保全・再生に向けた自然再生事業や生物多様性保全型農業などの取組を進める。 (個体レベルでの安全性) - 人為的な要因による、指標種の死傷事故が起こりにくい、安心・安全な生息環境が実現している。 (持続可能で安心・安全な国土づくりや地域づくり) - 社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する減災・防災機能を活用し、持続可能で安心・安全な国土づくりや地域づくりを推進する。	(支援体制構築) - 生息環境づくりや地域づくりの取組に対して、人材の供給などによる支援体制が構築されている。 (広報) - 継続的な広報活動などにより、生態系ネットワークの取組に対する機運が醸成されつつあり、圏域内での認知度が年々高まっている。 - ガン類・ハクチョウ類・トキをシンボルとした生態系ネットワーク形成の取組が全国から注目され、地域ブランドの確立につながっている。 (環境学習) - 生態系ネットワークを通じた自然環境学習が推進されている。 (地域振興：観光) - 指標種をシンボルとした生態系ネットワークに関連する地域資源を活かした観光が推進されている。 (地域振興：農業) - 生物多様性保全型農業に取組む生産者(農業者)や需要家が年々、増加している。

短期目標(2025年)

指標種であるガン類やハクチョウ類、トキが生息する水辺の保全・再生に必要な取り組みを検討・整理し、生態系ネットワークの形成に向けた流域の多様な主体との連携・協働体制の整備、取組機運の向上を図る。あわせて、指標種が生息する水辺を活かした地域づくりの取り組みが検討・試行されている。

生息環境づくり

(調査・評価・影響緩和)

- ・越後平野におけるねぐらや採食環境の保全に向けた基礎的な情報として、ガン類やハクチョウ類、トキの飛来・生息状況やポテンシャルを定期的に把握するための体制を構築する。
- ・ガン類やハクチョウ類、トキの生息に悪影響を及ぼす可能性のある事業等に関する情報を収集するための体制を構築する。

(ガン類・ハクチョウ類)

- ・飛来・生息状況やポテンシャルに関する情報に基づき、越後平野におけるねぐらや採食環境の保全・再生に向けた自然再生事業や生物多様性保全型農業などの取組を進める。

(トキ)

- ・トキの受入れに意欲的な地域を中心に、トキが生息していける環境整備が可能であるかを調査・検討し、トキの生息に適した環境を保全・再生するための取組や社会環境整備の取組を進める。
- ・トキが住みやすい環境づくりに向けて、越後平野における営巣地やねぐら・採食環境の保全・再生に向けた自然再生事業の水平展開に向けた取組や、生物多様性保全型農業などの取組のあり方について検討整理する。

(個体レベルでの安全性)

- ・人為的な要因による、ガン類やハクチョウ類、トキの死傷事故の状況を把握するための調査の実施や体制の構築を行う。

(持続可能で安心・安全な国土づくりや地域づくり)

- ・近年の気候変動による自然災害の頻発化、激甚化へ備えるための河川整備などの公共事業において、あらゆる関係者による流域全体で行う流域治水の考えに基づき、自然環境の機能を活用し、自然再生と防災・減災などの融合を図る「グリーンインフラ」や「Eco-DRR」の概念を反映した取組に着手する。

人・地域づくり

(検討体制構築・支援策検討・行動計画策定)

- ・当協議会の下部組織として、検討テーマや地域ごとに、目的や内容に応じて、部会、ワーキンググループなどを設置し、ガン類やハクチョウ類、トキをシンボルとした環境づくり・地域づくりの方策検討、人材育成などを通じた取組の支援策検討、行動計画の評価、見直しを行う。

(広報)

- ・生態系ネットワークの取組に対する機運の醸成を図るために、圏域内外に向けた広報を進める。
- ・トキの野生復帰に関する普及啓発を進める。

(環境学習)

- ・生態系ネットワークを通じた自然環境学習に係る推進体制を立案する。

(地域振興：観光)

- ・生態系ネットワークに関連する地域資源を活かした観光のあり方を整理するとともに、モデル事業を実施する。

(地域振興：農業)

- ・生物多様性保全型農業の推進に向け、生産者(農業者)や需要家などへの普及啓発を図るとともに、推進方策を立案する。

(地域振興：その他)

- ・その他の地域振興・産業振興分野についても、生態系ネットワークの活用の可能性について整理する。

推進体制

本構想は、「越後平野における生態系ネットワーク推進協議会（以下協議会）」と、実践的な取組のための部会により推進していきます。協議会では、目標に向けた取組の進捗確認、また本構想に基づいた行動計画を策定し、事業を推進していきます。本構想・行動計画は、取組状況や社会状況に応じて、変更・更新を行います。

越後平野における生態系ネットワーク推進協議会

- 設立：2019年7月22日
- 委員構成：学識者、市民団体、市町村、新潟県、環境省、農林水産省、国土交通省
- 主な役割：
 - 生態系ネットワーク形成の推進
 - 自然の価値や魅力を活かした地域の活性化
 - 越後平野における生態系ネットワーク形成の基本方針や将来像などの設定
 - 下部組織の設置
 - 生態系ネットワーク全国会議・全国フォーラム等への参加 など

行動計画

本構想の実行にあたり、各主体の短期・中期の具体的な取組や事業内容を設定した、行動計画を策定します（2022年度原案検討、2023年度策定予定）。

生息環境検討部会
実践的な取組に向け、
生息環境の検討を行う

自然環境活用部会
有識者や地域の関係主体が
参加する具体的な取組の
検討・実施を進める

関係機関担当連絡会

関係機関担当者による
連絡調整や情報交換を
必要に応じて開催

下部組織では、「越後平野生態系ネットワーク全体構想」に基づきながら、地域ごとの実情に合った取組みを進めていく。

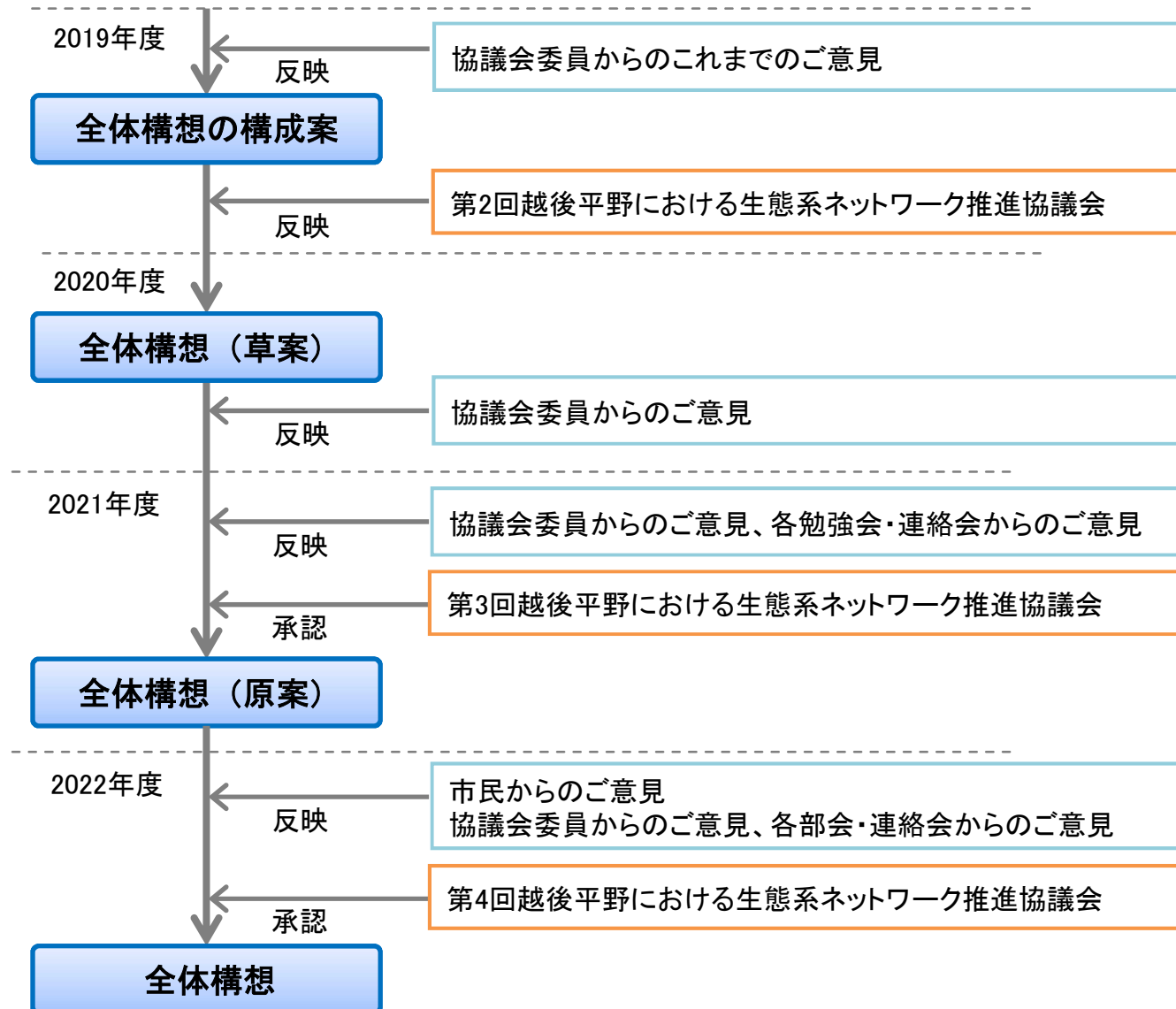


取組状況の把握、情報の共有、事業の連携

ラムサール条約の湿地自治体認証制度（環境省）・つなげよう、支えよう森里川海プロジェクト（環境省）
農林水産省生物多様性戦略（農林水産省）・トキの保護増殖事業（環境省・農林水産省・国土交通省）
トキの野生復帰推進事業（新潟県）・トキ分散飼育事業（長岡市）・SDGsにいがた等

全体構想の策定までの流れ

第3回協議会において、「越後平野生態系ネットワーク形成全体構想(原案)」の策定を、第4回協議会において「越後平野生態系ネットワーク形成全体構想」の策定を予定しています。



関係機関等からの意見

関係機関担当連絡会等を通じて寄せられた関係機関等からの意見です。

- 全体構想の策定にあたっては、市民・県民からの意見を取り入れることも必要ではないか。
- 越後平野に定着していないトキを、ガン類やハクチョウ類と同様に指標種として扱って良いのか。今一度、確認させてもらいたい。
- 具体の中身については各主体が我がこととして動かないと実現が難しい部分があるので、全体構想の策定に向けて各主体への丁寧な調整をお願いしたい。